

調査の結果

アンケート調査結果における各設問の母数 n (Number of caseの略) は、設問に対する有効回答者数を意味している。

各選択肢の構成比 (%) は小数点第 2 位以下を四捨五入している。このため、択一式の回答については構成比の合計が 100% にならない場合がある。

複数回答が可能な設問の場合、選択肢の構成比の合計が 100% を超える場合がある。

グラフ中の数字は、特に断り書きのないかぎりすべて構成比を意味し、単位は % とする。

< 施策に向けての一言 > は、関西学院大学法学部 森脇 俊雅 教授によるものである。

調査の結果

(1) カラス被害について

近年、カラスは、ごみを散らかしたり人を襲ったりする被害を発生させています。そこで、市民のみなさまにカラスによる被害についてお聞きし、今後の西宮市としてのカラス対策に役立てていきたいと考えています。

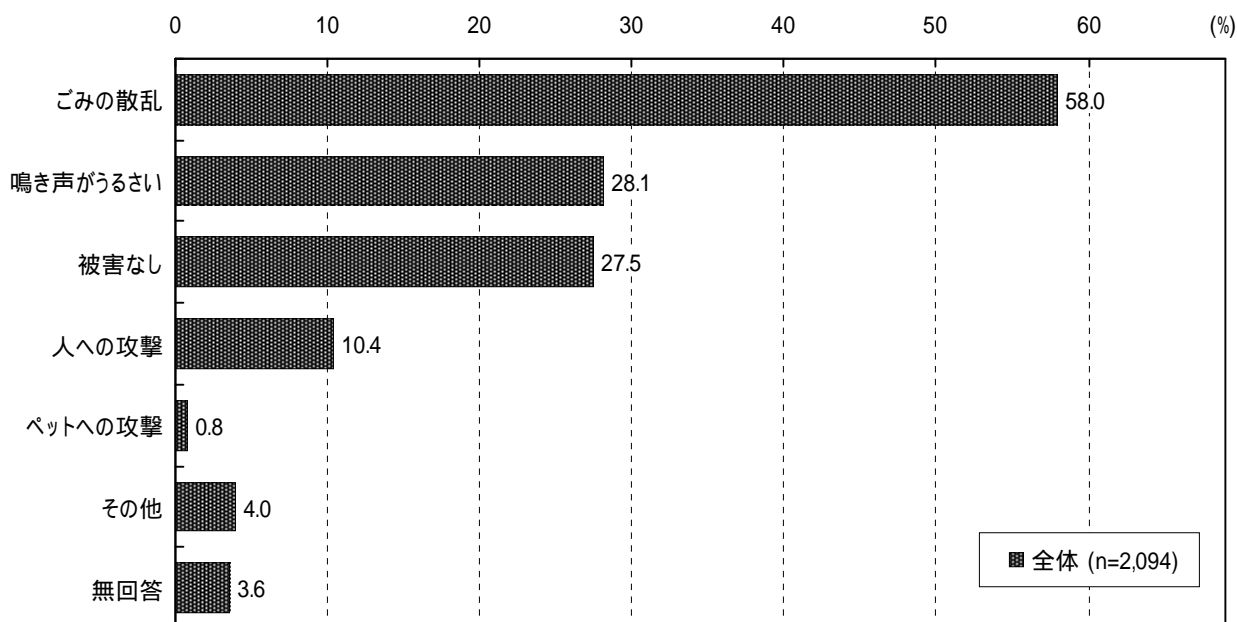
カラスによる被害の経験

問9 あなたもしくはあなたと同居する家族が、カラスによる被害を受けたことがありますか。(あてはまるものをすべて選んで)

カラスによる何らかの被害を受けたことのある人は約7割。

- ・カラスによる被害について、被害としては「ごみの散乱」が58.0%と最も多く、次いで「鳴き声がうるさい」が28.1%、「人への攻撃」が10.4%などと続いている。
- ・なお、「被害なし」という人は27.5%となっている。

カラスによる被害の経験



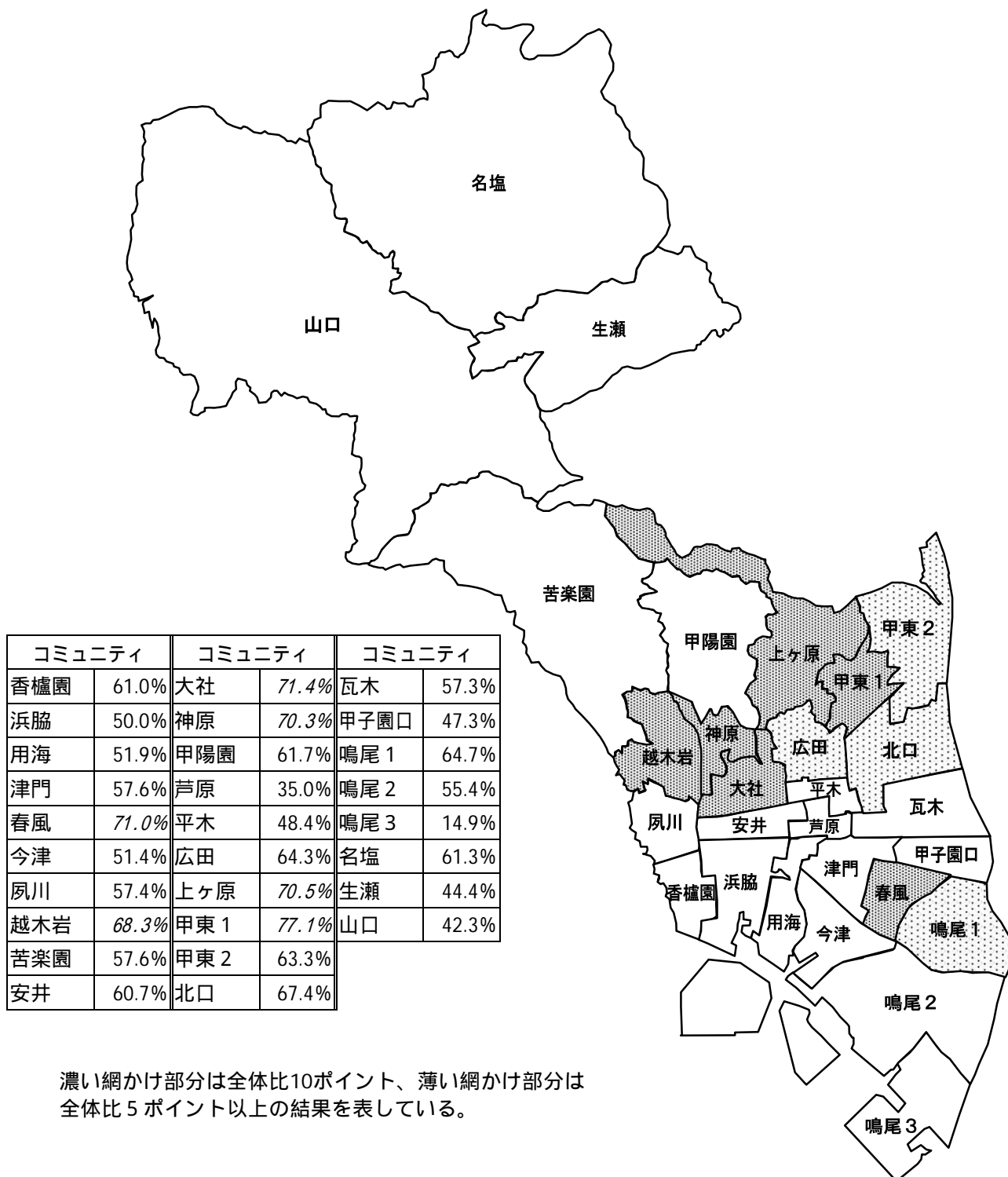
- ・住まいの種別にみると、「ごみの散乱」では「持ち家（一戸建て等）」で全体の58.0%から12.7ポイント、「被害なし」では「持ち家（集合住宅）」が全体の25.5%から10.9ポイント高くなっている。

	ごみの散乱	鳴き声がうるさい	人への攻撃	ペットへの攻撃	被害なし	その他	無回答
全体 (n=2,094)	58.0%	28.1%	10.4%	0.8%	27.5%	4.0%	3.6%
持ち家（一戸建て等） (n=934)	70.7%	30.7%	10.7%	1.2%	18.1%	4.9%	3.1%
持ち家（集合住宅） (n=547)	41.3%	26.1%	11.7%	0.5%	38.4%	4.4%	3.1%
公営・公社・URなどの賃貸住宅 (n=195)	43.1%	28.2%	9.7%	0.5%	33.8%	2.1%	6.2%
民間賃貸住宅・マンション、間借り (n=340)	57.9%	24.4%	8.2%	0.3%	31.2%	2.4%	4.7%
社宅・寮など (n=52)	59.6%	21.2%	3.8%	0.0%	32.7%	3.8%	3.8%
その他 (n=11)	63.6%	36.4%	18.2%	0.0%	36.4%	0.0%	0.0%

斜体の数値は、全体比10ポイント以上の結果を表している。

- ・居住するコミュニティ別に見ると、カラスによる被害について「ごみの散乱」が全体の58.0%から、「甲東1」では19.1ポイント、「大社」では13.4ポイント、「春風」では13.0ポイント、「上ヶ原」では12.5ポイント、「神原」では12.3ポイント、「越木岩」では10.3ポイント高くなっている。また、その周辺地域でも5ポイント以上高くなる傾向がみられる。

問9 カラスによる被害の経験 《ごみの散乱》



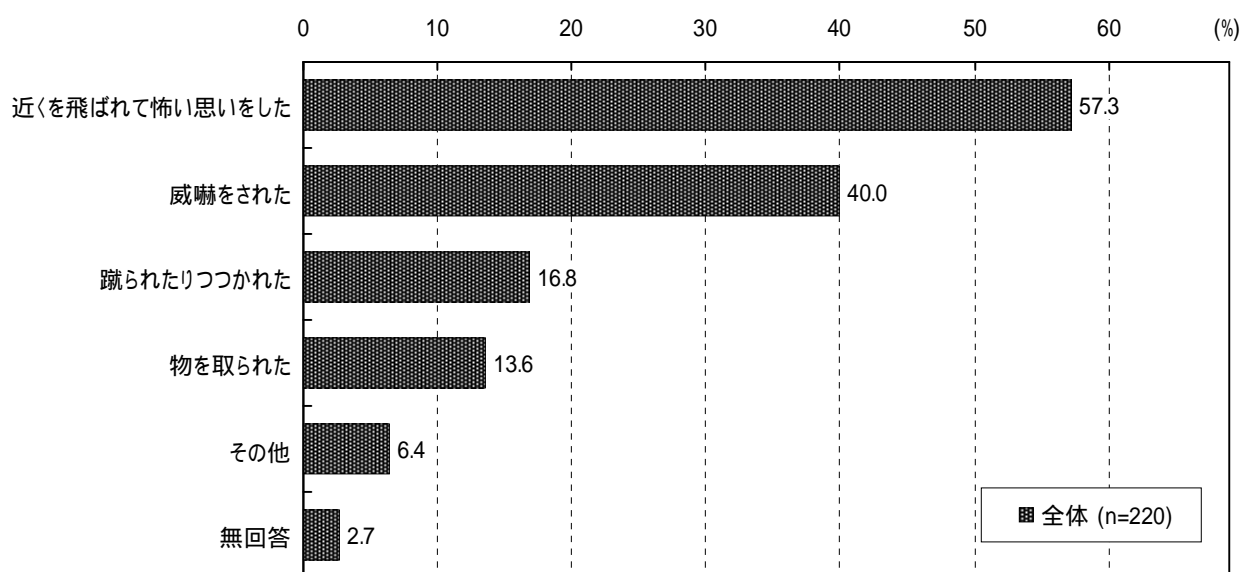
人への攻撃の内容

問10 「人への攻撃」と答えた人にお聞きします。どのような被害でしたか。(あてはまるものをすべて選んで)

被害内容は近くを飛ばれたり威嚇をされるなど。

- ・人への攻撃の内容について、「近くを飛ばれて怖い思いをした」が57.3%と最も多く、次いで「威嚇をされた」が40.0%などと続いている。

人への攻撃の内容



- ・性別にみると、「威嚇をされた」では男性で全体の40.0%から12.4ポイント高くなっている。

	蹴られたり つかれた	物を取られた	威嚇をされた	近くを飛ばれて 怖い思いをした	その他	無回答
全体 (n=220)	16.8%	13.6%	40.0%	57.3%	6.4%	2.7%
男性 (n=84)	14.3%	15.5%	52.4%	50.0%	9.5%	2.4%
女性 (n=129)	19.4%	12.4%	32.6%	62.0%	3.9%	2.3%

斜体の数値は、全体比10ポイント以上の結果を表している。

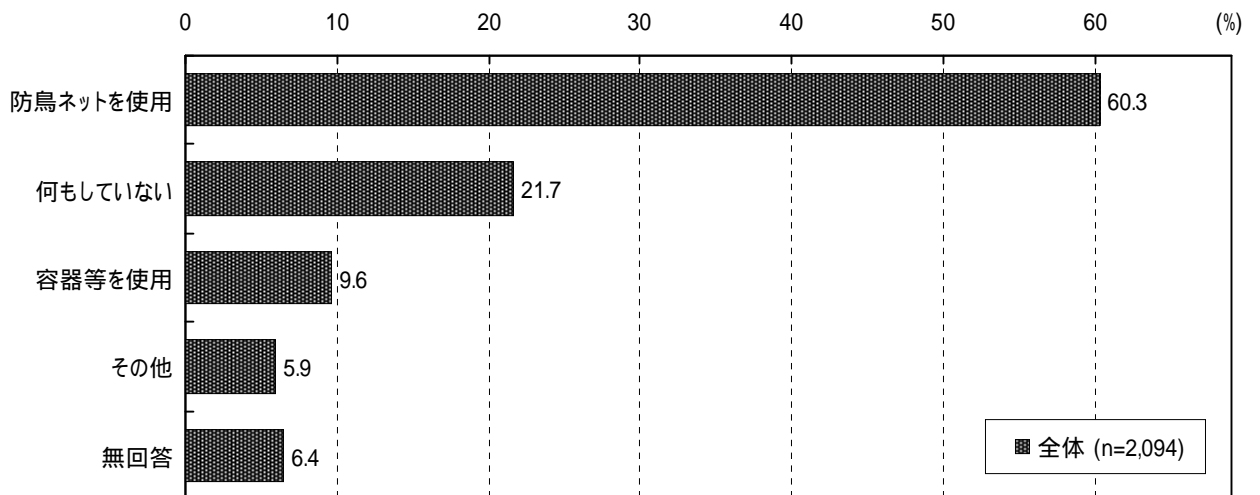
ごみ出しをする際の対策

問11 あなたは、ごみ出しをする際にご自身で何か対策を行っていますか。(あてはまるものをすべて選んで)

ごみ出し時のカラス対策は防鳥ネットを使用が6割。

- ・ごみ出しをする際の対策について、「防鳥ネットを使用」が60.3%と最も多く、次いで「何もしていない」が21.7%などとなっている。

ごみ出しをする際の対策



- ・年代別にみると、「何もしていない」では20～29歳で全体の21.7%から13.8ポイント高くなっている。
- ・住まいの種別にみると、「防鳥ネットを使用」では「持ち家（一戸建て等）」で全体の60.3%から14.6ポイント、「社宅・寮など」では12.8ポイント高く、また、「何もしていない」では「公営・公社・URなどの賃貸住宅」と「その他」が全体の21.7%から14.7ポイント高く、「持ち家（集合住宅）」では13.6ポイント高くなっている。

	防鳥ネットを使用	容器等を使用	その他	何もしていない	無回答
全体 (n=2,094)	60.3%	9.6%	5.9%	21.7%	6.4%
20～29歳 (n=169)	57.4%	5.3%	2.4%	35.5%	1.2%
30～39歳 (n=342)	55.0%	11.4%	5.6%	29.2%	2.6%
40～49歳 (n=421)	60.1%	13.5%	9.0%	19.5%	3.6%
50～59歳 (n=337)	57.3%	9.5%	7.4%	25.8%	4.5%
60～64歳 (n=193)	60.6%	9.8%	4.1%	19.2%	10.9%
65～69歳 (n=196)	67.3%	5.1%	6.1%	12.2%	11.2%
70歳以上 (n=429)	64.3%	7.9%	4.2%	14.7%	11.7%
持ち家（一戸建て等） (n=934)	74.9%	8.0%	7.1%	10.3%	4.9%
持ち家（集合住宅） (n=547)	36.9%	15.7%	6.4%	35.3%	8.0%
公営・公社・URなどの賃貸住宅 (n=195)	41.5%	7.7%	3.6%	36.4%	12.8%
民間賃貸住宅・マンション、間借り (n=340)	66.8%	5.0%	3.8%	22.6%	4.7%
社宅・寮など (n=52)	73.1%	9.6%	3.8%	17.3%	1.9%
その他 (n=11)	45.5%	9.1%	9.1%	36.4%	9.1%

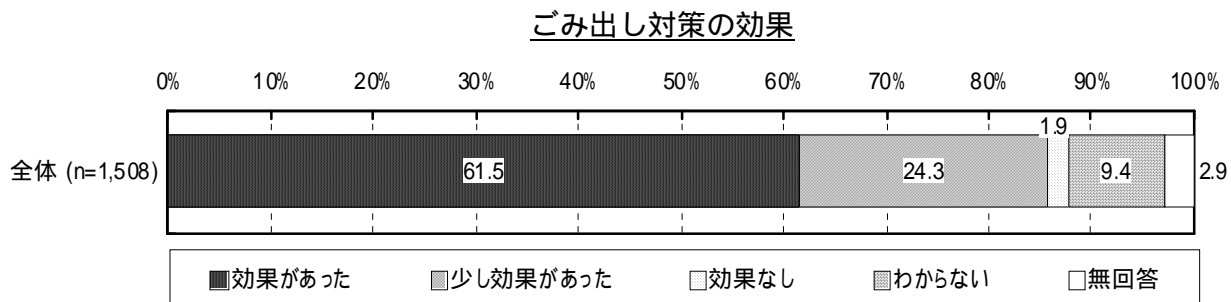
斜体の数値は、全体比10ポイント以上の結果を表している。

ごみ出し対策の効果

問12 その対策は効果がありましたか。(1つ選んで)

8割以上が何らかのごみ出し対策の効果を感じている。

- ・ごみ出し対策の効果について、「効果があった」が61.5%と最も多く、次いで「少し効果があった」が24.3%などとなっている。

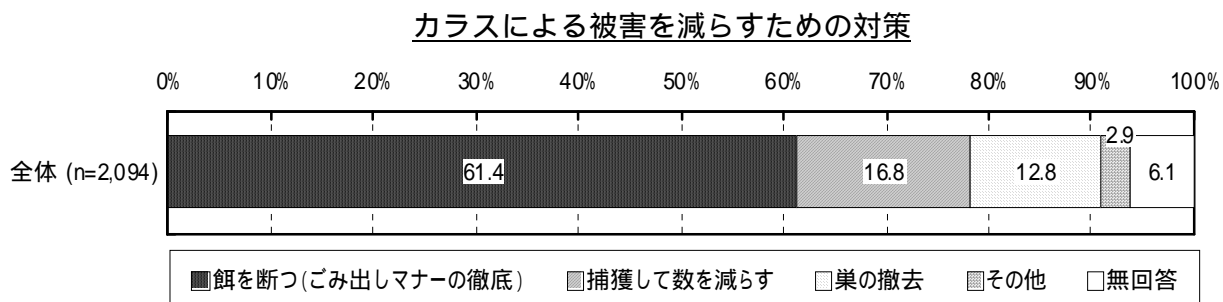


カラスによる被害を減らすための対策

問13 あなたは、カラスによる被害を減らすためには、どのような対策が望ましいと思いますか。(1つ選んで)

最も望ましいカラス被害の軽減対策は餌を絶つこと。

- ・カラスによる被害を減らすための対策について、「餌を断つ(ごみ出しマナーの徹底)」が61.4%と最も多く、次いで「捕獲して数を減らす」が16.8%、「巢の撤去」が12.8%となっている。



施策に向けての一言 <カラス被害について>

カラスはわれわれの身近な野鳥であり、童謡や童話などにもしばしば登場し、親しまれてきている。しかし、近年、西宮市でもカラスによる被害が増大し、市民生活において問題となっている。カラスによる被害をどう減らしていくのか、カラスとどのように共存していくのか、検討を迫られている。

問 9 は回答者本人と同居する家族がカラスによる被害を受けたことがあるかを尋ねている。「被害なし」という回答は 27.5%であり、70%を超える市民が何らかの被害を受けているといえよう。これはかなり高い割合である。被害の内訳は「ごみの散乱」が最も多く、58.0%となっている。続いて、「鳴き声がうるさい」28.1%、「人への攻撃」10.4%の順である。このような回答からカラス被害で困っているケースの多くはごみの散乱のように思われる。そのことは住居形態別のクロス集計からもうかがわれる。「持ち家(一戸建て等)」で「ごみの散乱」が 70.7%と顕著に高くなっている。他方、持ち家でもマンションなどの集合住宅では 41.3%であり、大きな差が出ているのである。

問 10 は「人への攻撃」の内容を尋ねている。「近くを飛ばれて怖い思いをした」が最も多く、57.3%に達している。続いて、「威嚇された」40.0%、「蹴られたりつつかれた」16.8%、「物をとられた」13.6%の順である。性別でみると、「近くを飛ばれて怖い思いをした」は男性 50.0%であるが、女性 62.0%であり、「威嚇された」は男性 52.4%、女性 32.6%、「蹴られたりつつかれた」は男性 14.3%、女性 19.4%である。女性に対してより攻撃的になっているように思われる。

ただ、ここで留意しておくべきなのは、市民意識調査は 20 歳以上の市民を対象としており、未成年の生徒・児童は回答者となっていないことである。大人よりも子どもがカラスの攻撃対象になりやすいと考えられることから、子どもを含めた調査ではやや異なる結果が出てくることもありえよう。

本調査では「ごみの散乱」がカラス被害で最も多いが、ごみ出しをする際に、市民はどのような対策を行っているのだろうか。問 11 から、「防鳥ネットを使用」が最も多く、60.3%となっている。「容器等を使用」は 9.6%と少ない。続いて、問 12 はごみ出し対策の効果を尋ねている。「効果があった」61.5%、「少し効果があった」24.3%となっており、何らかの効果があったとする回答は合わせて 85.8%になっている。ごみ出しの対策は効果があるのである。問 11 で「何もしていない」とする回答が 21.7%もあることから、これらの人たちが対策に踏み出すならば、ゴミの散乱などの被害はもっと減少すると考えられる。対策の多くは「防鳥ネットの使用」であり、市としてもこうした対策などで市民に相談や助言をしていくことは有益ではなかるうか。

問 13 はカラスによる被害を減らすための対策を尋ねている。「餌を絶つ(ごみ出しマナーの徹底)」が最も 61.4%となっている。続いて、「捕獲して数を減らす」が 16.8%、「巣の撤去」が 12.8%となっており、割合としては低くなっている。「捕獲して数を減らす」や「巣の撤去」はだれが実施するのかという問題もある。この回答から、カラス被害の対策として、市民はごみ出しの工夫など自分たちでできることをまず考えていることがわかる。また、身近な野鳥としてのカラスに対して、その被害を減少させつつ共存を求めている姿勢もみることができるのではなかるうか。

(関西学院大学 森脇俊雅)